

# 臨床心理室紹介

主査 松井 彰子

臨床心理室は、外来に通っている子どもたちや入院している子どもたちを対象に心理検査と心理療法を行っています。

## 心理検査

幼児の発達障害児が多く来院することもあり、知能検査とともに発達検査も多く行っています。これらの検査を通して、子どもの得意な部分と不得意な部分を見極め、子どもたちを具体的に援助する方法を探そうと努めています。

ある種の葛藤から家庭や学校などで不適応状態を呈している子ども、そしてその他の精神的な問題を抱えた子どもたちに対しては、投影法と呼ばれるロールシャッハテストや描画テストなどを行い、子どもたちがことばに出にくいものや説明しにくいものをとらえる努力をしています。

## 心理療法

現在は、室員と子どもが一对一で治療関係を結んで行う個人療法を主に行っています。必要に応じて、親を対象としたカウンセリングを行うこともあります。

子どもの障害や症状によって様々に異なりますが、技法としては教材・教具を媒介とした治療教育的なアプローチ、遊戯療法、箱庭療法、描画療法、カウンセリングなどが主なものです。心理療法を通して、子どもたちの心の問題が少しでも軽減されるよう、そして解決へと向かう援助ができるように日々努めています。

このほか、他の職種と協働して発達障害児のグループ療法・親グループカウンセリングなどにも携わっています。

現在、室員5名がこれらの仕事を担当しています。



## ＜Q&Aコーナー＞

よく質問されることについてお答えします。

Q：心理の仕事に就くにはどうしたらいいんですか？

A：私たちの場合、あすなる学園は県の機関ですので、県の採用試験を受けました。室員は、大学や大学院で心理学を勉強していました。採用後は、直接あすなる学園に配属される場合もあれば、児童相談所などの機関に配属されることもあります。

Q：心理の人は、相手の心が読めるのですか？

A：超能力者のようには読めません。心理学は科学です。

これまでの多くの研究に基づいて、いくつもの可能性を考えます。

Q：何か簡単な心理テストをしてください。

A：雑誌でよく見かける心理テストとあすなる学園で行う心理検査は違います。簡単にわかるほど人の心が単純ならいいのですが……。

Q：「心理テスト」で本当にその人のすべてがわかるの？

A：検査でその人のすべてがわかるわけではありません。しかし、心理検査に映し出されたその人の一面は、うかがい知ることができると思います。投影法といわれる心理検査は、その人をより深く理解していくための一つの手段として用いられています。

Q：カウンセリングを受けたいのですが…。

A：あすなる学園ではカウンセリングのみを受けただけはできません。まずは、主治医にご相談下さい。